

# 低温開花性に優れる白系秋輪ギク新品種「冬馬(とうま)」の育成

電照2月～3月出し栽培に適し、低温管理で開花が遅れず花のボリュームがある秋輪ギク「冬馬」を育成

## 背景・目的

- ・これまで、本県輪ギクの主力品種「神馬」をもとに、突然変異育種法により側枝が少なく、花・茎葉のボリュームのある「新神」を育成した。
- ・「新神」は低温期に開花が遅れるため、年内出荷の作型に限定されることが課題となっている。
- ・そこで、「新神」を再改良し、ボリュームに加え、低温期でも開花の遅れない品種の育成が必要である。

## 成果の内容

低温管理で開花が遅れず花のボリュームがある秋輪ギク「冬馬」を育成

- 「新神」に放射線(イオンビーム)を照射し、低温開花性を持つ系統を選抜
- 花き部等で評価試験を実施し、品種候補を選定
- 27年度1月に品種登録出願公表  
(出願番号:第30519号)

- ① 「新神」よりも低温開花性が向上
- ② 「新神」並の花のボリュームを保持し、さらに草丈が良く伸びる
- ③ 低温期ほど優れた特性が発揮されるため、2月から3月出し栽培の作型に適している



「冬馬」

導入メリット

- ① 低温期も草丈の伸びが良いため、わい化剤などでボリュームをつけることにより、秀品率の向上が期待される。
- ② 低温管理で開花が遅れないため、暖房費の節減による生産コストの削減が期待される。

## 期待される効果

- ・低温期の秋輪ギク栽培における秀品率向上

普及対象・範囲  
南薩, 大隅地域等の輪ギク栽培農家